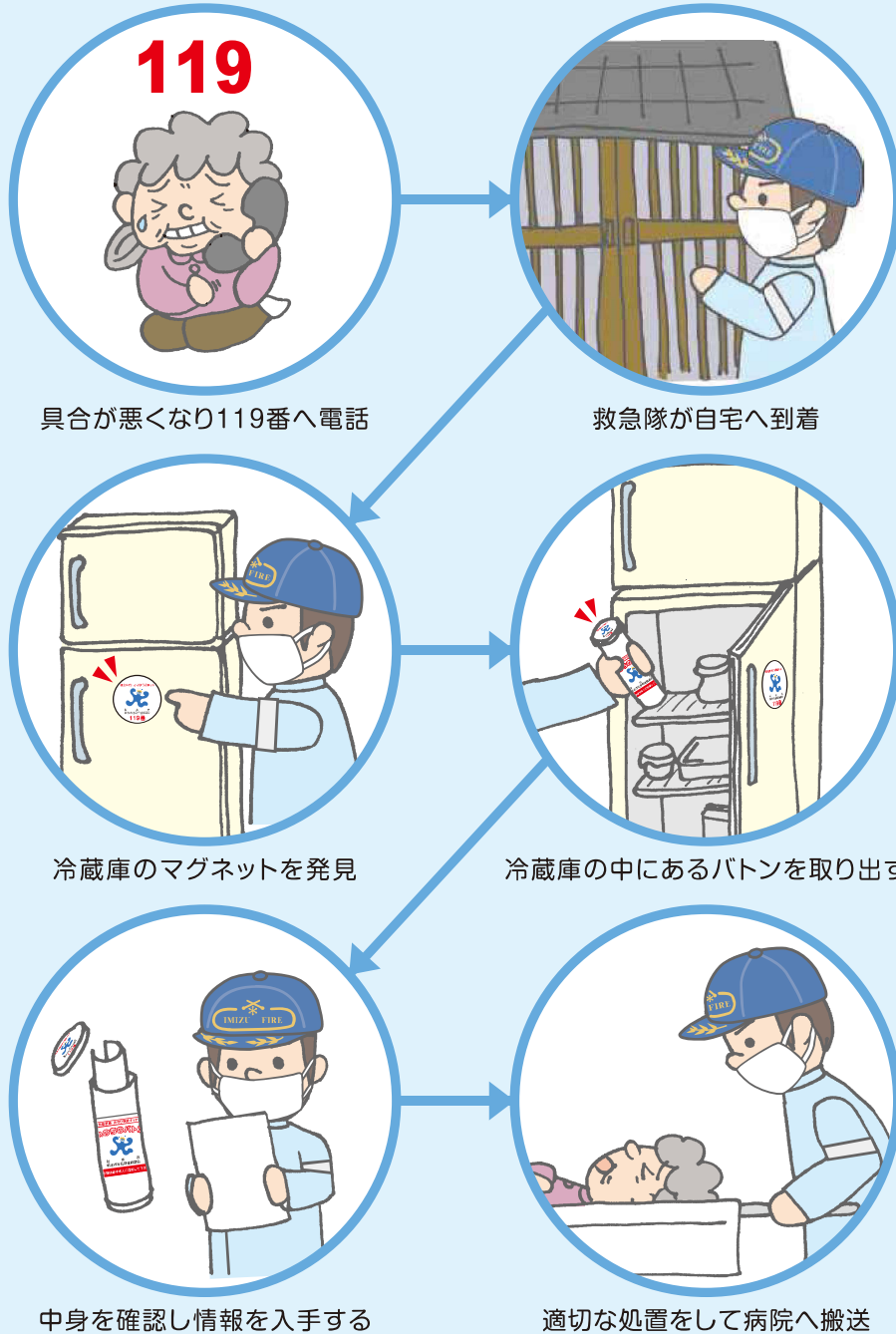


いのちのボタン活用例



～いのちのボタン～

あなたに代わって、
大切ないのちの情報を伝えます。

1 バトンに入れるものを用意します

●本人控え

●薬剤情報

●またはお薬手帳コピー

2 専用ケース (ボタン) に入れます



3 2のボタンを冷蔵庫の目立つ場所に保管します



4 マークマグネットを冷蔵庫の扉に貼り完了です



いのちのボタンとは

この活動は、医療情報や緊急時の連絡先を記入した「情報シート」を、**いのちのボタン**と呼ばれる専用ケースに入れ、ご家庭の冷蔵庫に保管し、**救急搬送時の迅速な対応**や**住民同士の日頃の見守り**等に活用するものです。

どんな人が対象になるの？

- 1 一人暮らし高齢者
高齢者のみの世帯
(おおむね65歳以上)
- 2 心身に障がいのある方
- 3 日中、ひとりで過ごす
ことが多い方で、心身に不安のある方
- 4 その他、支援を希望する方など

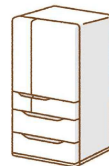
期待される効果

- 1 **安心・安全の確保**
 - ・救急搬送時の救命率の向上及び治療、後遺症の軽減など迅速な救命活動が可能になる。
 - ・高齢者や障がい者、持病を持つ方が安心できる。
- 2 **災害時の対応**
 - ・災害時に配慮が必要な方を把握することができる。
- 3 **住民による地域の支えあい活動の充実**
 - ・日常的に支援が必要な方の把握と見守り活動の充実が図られる。
 - ・地域住民同士や専門職との情報共有による、ネットワークの質が向上する。



なぜ冷蔵庫なの？

- ・ほとんどの家庭（台所）に設置しており、場所の見当が付きやすいため。
- ・災害時にも強度があり、壊れにくい。



救急隊員から見た効果



- ✓ **医療情報の迅速な把握と適切な搬送先の選定**

情報シートの中段部分にある、特記事項は、救急隊員に伝えたいことが記載できるようになっており、病気の都合上、病院の指定や注意事項があった際、記載があると、搬送先の選定がしやすいことがあります。
- ✓ **現場滞在時間と搬送時間の短縮**
- ✓ **緊急連絡先の把握**

搬送時の本人の状態によっては、入院や緊急手術が行われるなど、本人が判断できない場合もあり、急いでご家族に連絡を取る必要がある場合もあります。
- ✓ **搬送先病院への情報の引継ぎ**

情報シートに書いてある情報は、搬送された病院へ引き継ぐためにも大切な情報となっています。

実態把握調査

年に1回（秋～冬頃）に全登録者へ実態把握調査を行っています。調査は、お住まいの地区社会福祉協議会にご協力いただいています。

調査が必要な理由

- ・情報シートの内容（特に医療情報、緊急連絡先）が1年間で変化するため。
- ・冷蔵庫にボタンが入っておらず、別の場所にあることがあるため。

個人情報の取扱い

医療情報等デリケートな情報の取り扱いも発生することから、登録の際には同意書に署名をいただいています。
救急搬送された場合、救急医療に提供し活用します。
災害発生時や地域の支えあい支援のため、消防本部や市、市社協、地区社協、自治会・町内会、民生委員等へ提供し、活用します。
※緊急時に限り、情報を警察等関係機関へ提供する場合があります。

